

愛すべき

モラ夫

と の

泊
木
しい

生活





沖縄へ移住して数か月が経った頃だった。

ある日突然、モラ夫が切れたのである。

その日モラ夫は珍しく家の中を掃除し始めていた。

ごみを集めたり、長いこと玄関に置きっぱなしだったアクアクララの水入りのボトルを部屋の中に移動したりしていた。

私は特に何も言わなかった。

すると突然切れたのである。

こんな風に。



突然の事に驚く私。ぽかんとしていると、モラ夫がこう言った。

「汚い！家が汚い！なんで掃除しないの？最近掃除してるの俺なんだけど！」

（といっても、モラ夫が掃除をしたのは昨日と今日の2日間である）

私はこう答えた。

「え、こっちだって忙しいんだよ。離乳食3回作ってシャワーだって一日に多いときは3回いれてるんだよ」



するとモラ夫はこう言った。

「俺、今10分で掃除出来たよ!? 本当に10分も時間ないの!？」

子供は現在、後追いの時期である。

連続して10分の自由時間はなかなか取れない。

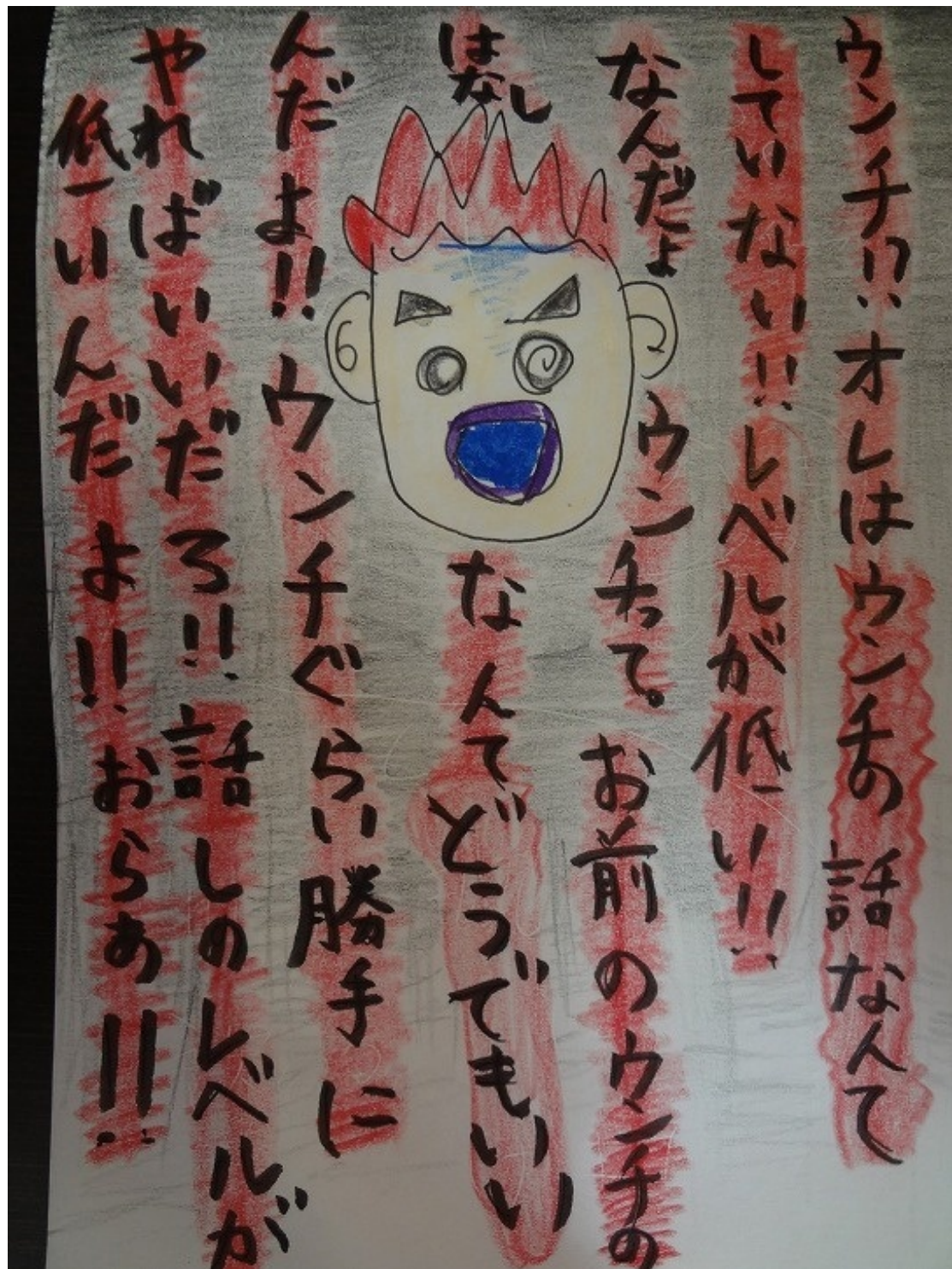
奇跡的に10分の自由時間を取れたとしても、別の事に使いたい。

それを伝えたかったのだが、何せ夫が突然切れたのである。

動揺した私はこういってしまった。

「え、10分も時間あったら、うんちとかしたいな。」

すると夫が烈火のごとく怒りだした。



「ウンチ！？ああ！？ウンチだとお！？」

私が言い訳しようとか何か言葉を発しようとしても毎回途中で遮られる。

私「いや、だかr」

モラ「俺はウンチの話なんてしてねえんだよ！」

私「10分間もそもそもm」

モラ「レベルが低い！！話のレベルが低いんだよ！ウンチ！？あんたのウンチの話なんてしねえんだよ！」

私「……」（もう反論することを諦めた）

やばい。完全に答えを間違えた。

と思ったけれどもう遅かった。

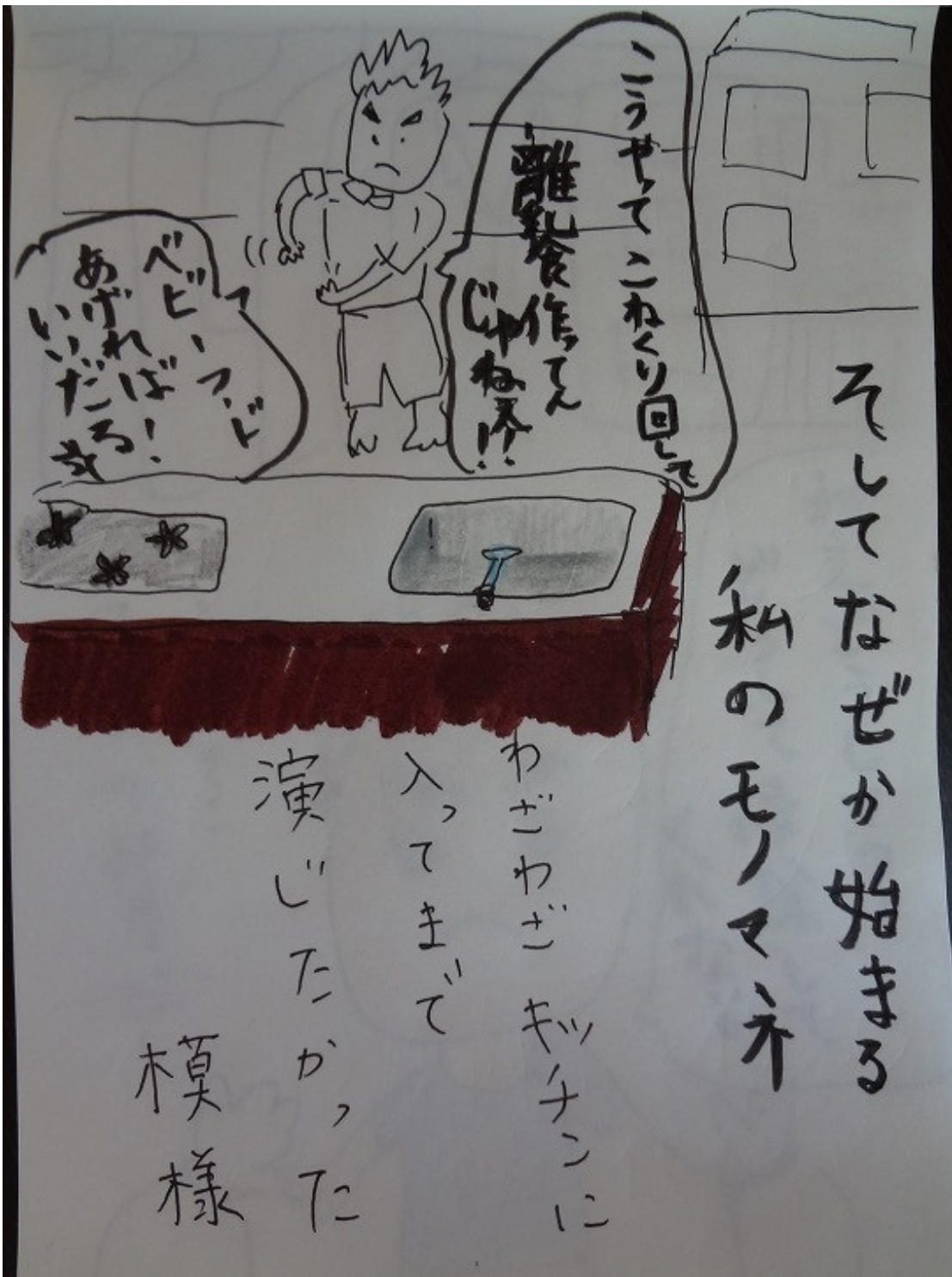
その後彼は、まあ喋る喋る。

怒りまくってしゃべるしゃべる。動く動く。



年末は忙しいと猛烈アピール。

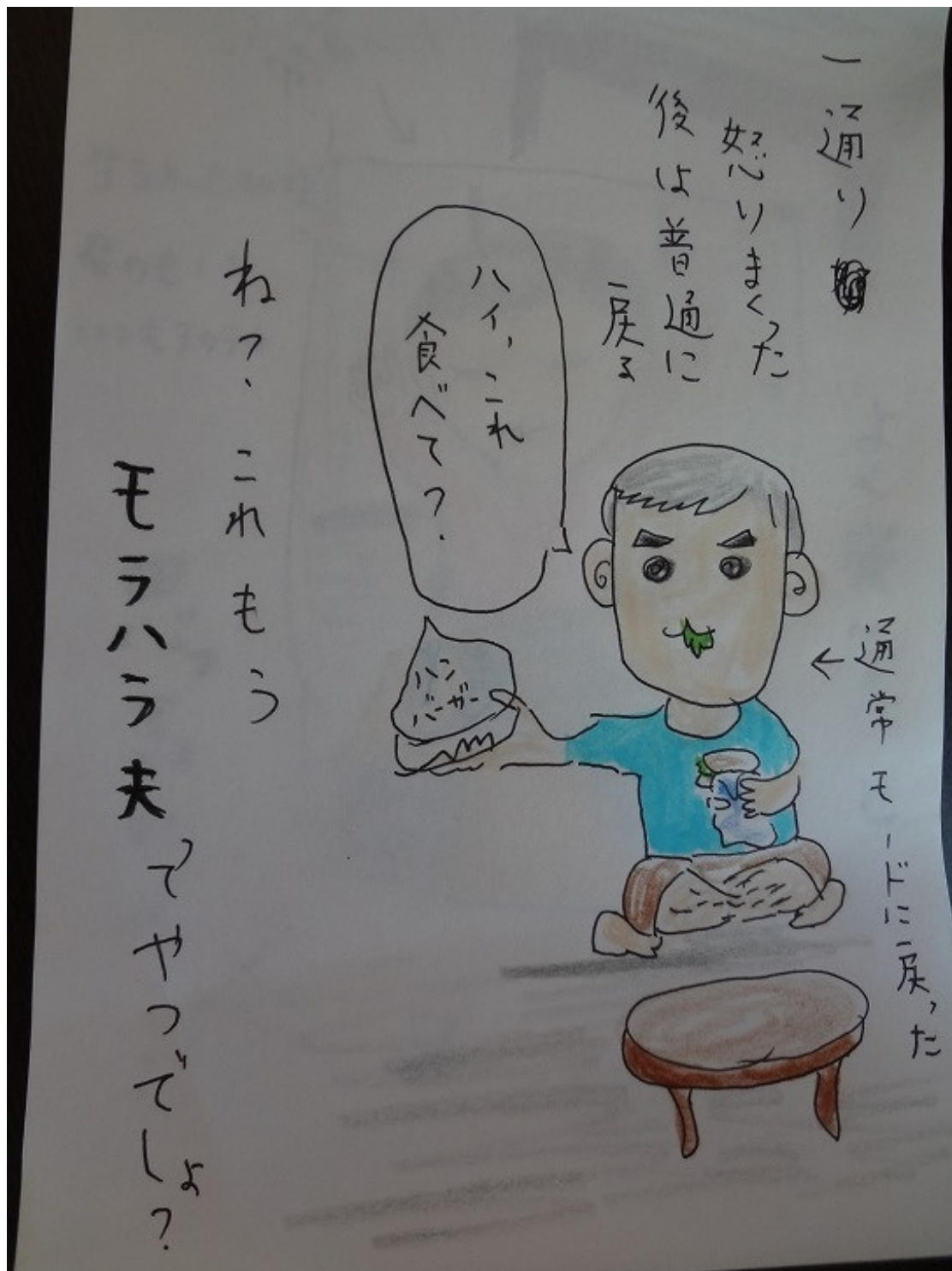
(今は7月ですってば。それにあなた毎日18時半に帰宅してるじゃないの)



離乳食なんていちいち作ってないで、ベビーフードをあげて時間作って掃除しろという。

私はただ黙って傍観した。

彼のモノマネについてもノーツッコミでただぼーっと眺めていた。



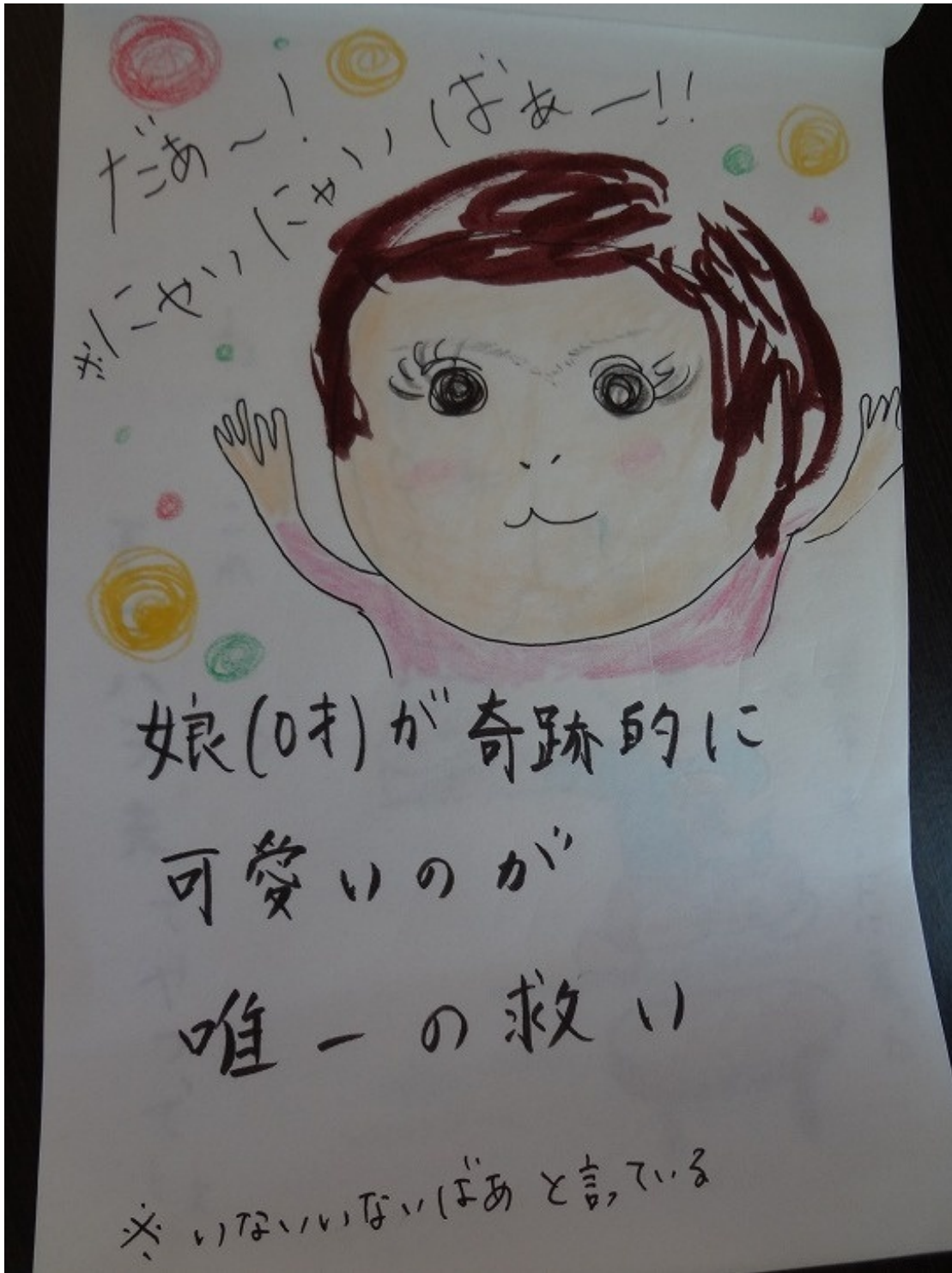
怒りまくった後に普通モードで話しかけてくる。

なんなんだこいつ!!!怒

私は泣きながら食器を洗って寝た。

こんな私達からも奇跡的に可愛い娘が生まれた。

これだけが本当に救い。



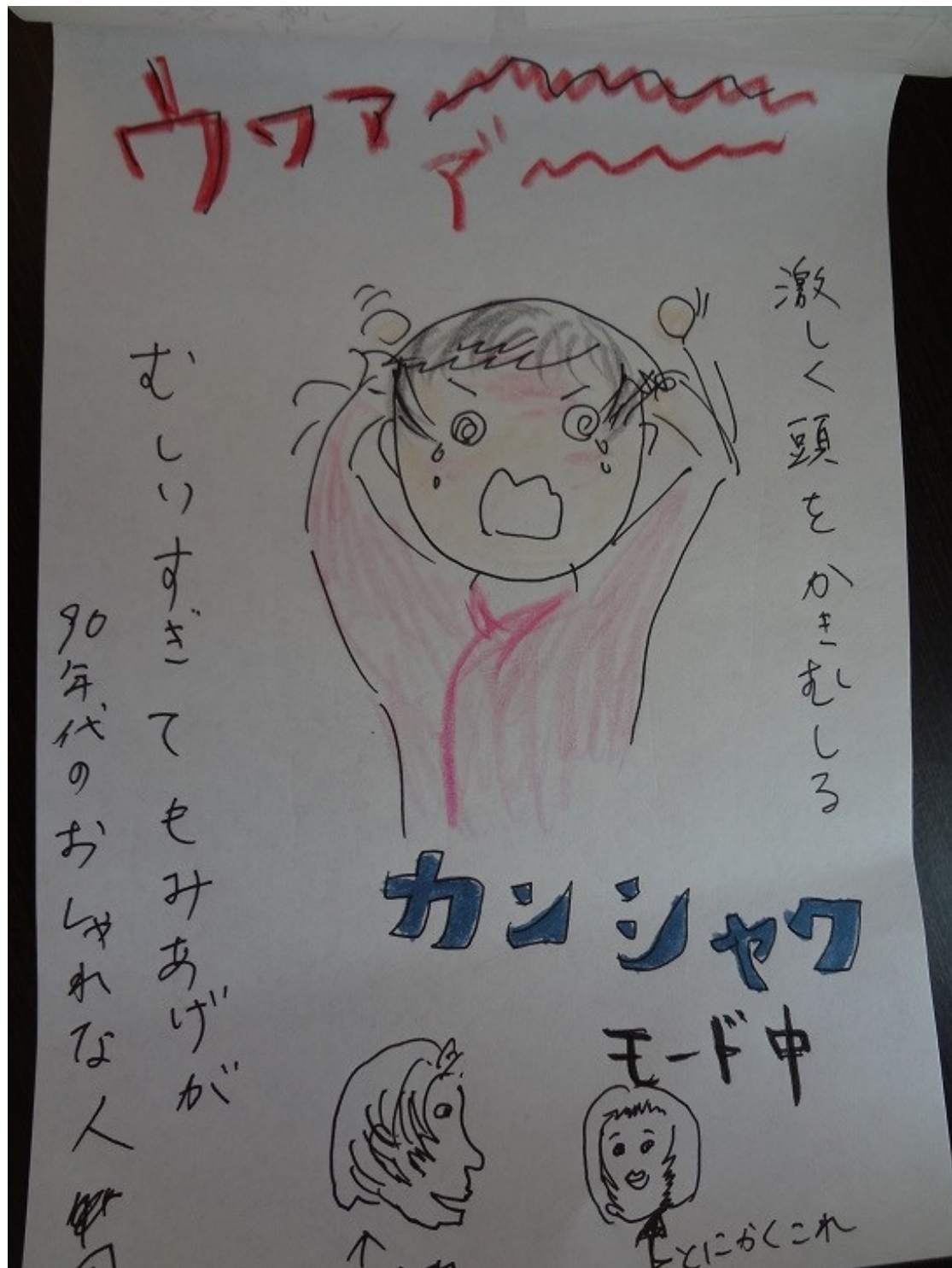
モラ夫のプライベートを絵日記で暴露してストレスを発散しつつ、がんばろうと思います。
つづく

オムツ事件

今思うとモラ夫のモラハラは、移居前から始まっていた。
当時は仕事が激務だから、ピリピリしているんだと解釈していたけど、どうも違うようだ。
ほとんど協力が得られなかったので、子供が新生児の頃は本当に大変だった・・・。



その日、リビングで子供を座椅子の上に寝かせて、私は夕飯を作っていた。



そして急に始まったギャン泣き。

すぐに火を止めて作りかけの夕飯をすべて放置し、オムツを換えた。まだ泣き止まない。抱っこしてあやしてみた。まだ泣き止まない。

料理中の匂いが嫌だったのかと思い、窓を開けて外を見せてみた。まだ泣き止まない。

ミルクの時間じゃないけれど、試しにワーワーわめく娘に母乳を与えた。

しばらくしてようやく静かになった。また寝た。

生まれた直後から7か月の頃まで、娘は鼻涙管閉塞だった。

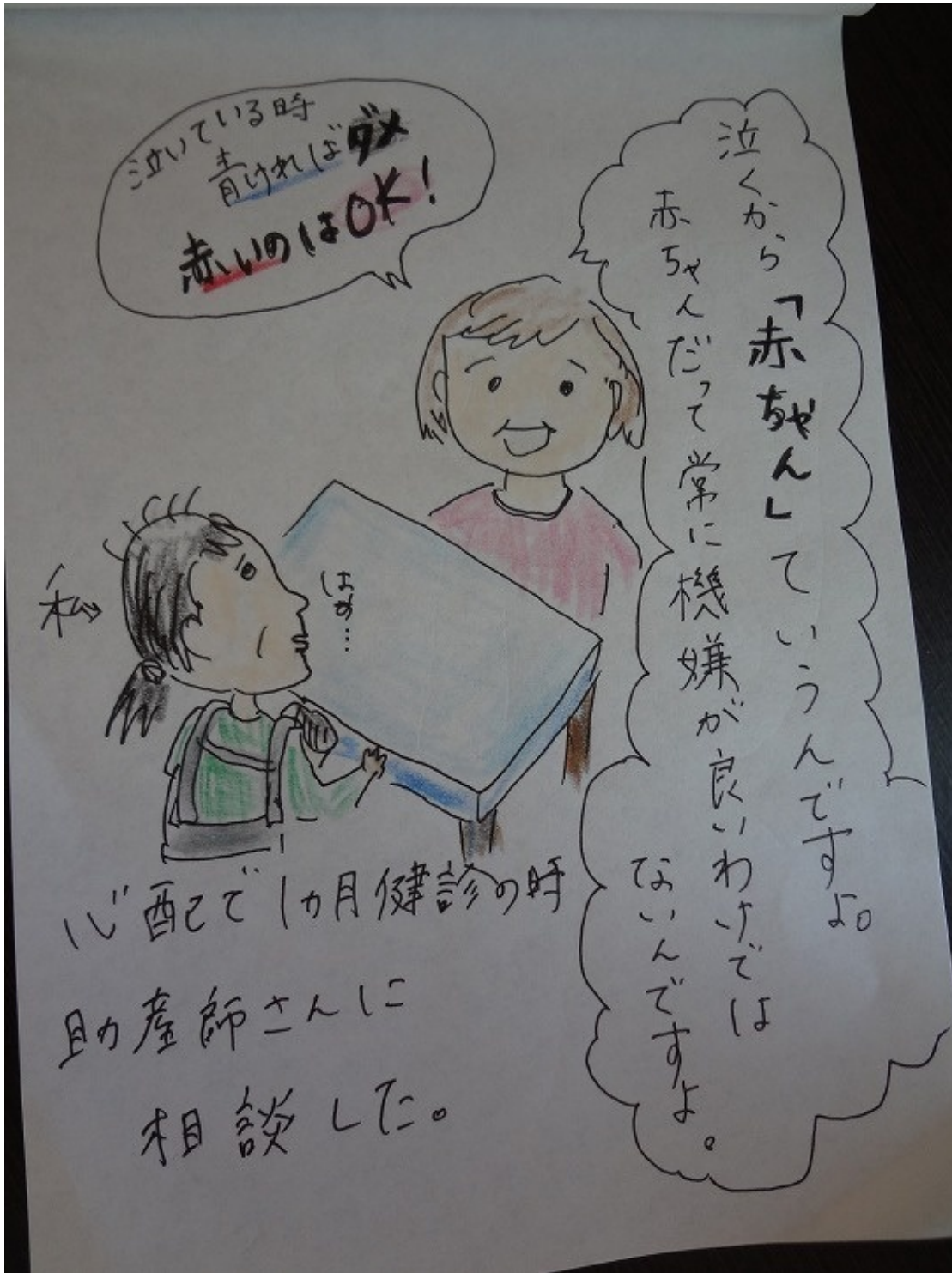
(よくわからないけど、片側の鼻涙管とやらが詰まっていたようだ)
目ヤニや涙がひどかった。それもあってかご機嫌斜めな時が多かった。
(幸い近所の超高身長イケメンドクターのおかげで治ったのだが。)



とにかく驚くほどの大声で痙攣を起して泣き叫ぶことが多かった。

暑かったのか、お腹が空いていたからなのか、頭が痒かったのか、目が痒かったのか、わからない。頭をガシガシしながら泣きわめくことが多かった。

あまりにも泣くので、1か月健診の時助産師さんに相談したほどだ。



それなのに、モラ夫はミルクを作るでもあげるでもなく、夜中も起きてくる気配もなく、赤ちゃんが泣いている最中に「なんで泣かせてるんだ！」などと言って来たり、退院直後、赤ちゃんがまだ母乳をうまく飲めずに泣いている時、（産院では、ミルクの前に必ず母乳をあげること！と教えられた）「虐待していると思われるからやめろ」などと言ってきていた。

そんなわけで、その頃私のモラ夫へのイライラ度もかなりピークに達していた。
夫には頼れない、実家も遠い、自分なりにあれこれ試しながら、
いつ起こるかわからない子供のギャン泣きに対応していた頃だったのだ。

母乳を飲んで、やっと寝た・・・。

ホッとしているとモラ夫が帰宅してきた。

私は放心状態で、「おかえり、やっと寝たよ・・・」と言った。



それなのに、それなのに、だ。

モラ夫はリビングに転がっている使用済みのオムツを目ざとく見つけ、叫びだした。



「足の踏み場もな——い!!! ねえ、なんでここにオムツ!? 汚い。ゴミ箱に入れてよ! 俺が踏んだらどうすんの!? ウンチだったらどうすんの!? ねえどうすんの!?!」

.....

ギャン泣き真っ最中に悠長にゴミ箱（おむつ用のゴミ箱は隣の部屋にしかなかった）の所まで行って、オムツをわざわざ捨てると!? そして子供の所に戻れと!? 何もしないでくせに!

俺が踏んだらどうすんの!? 知るか! 勝手に踏めよ!

そんな感情がどっと溢れていた。その日が私達にとって初のバトルだった。

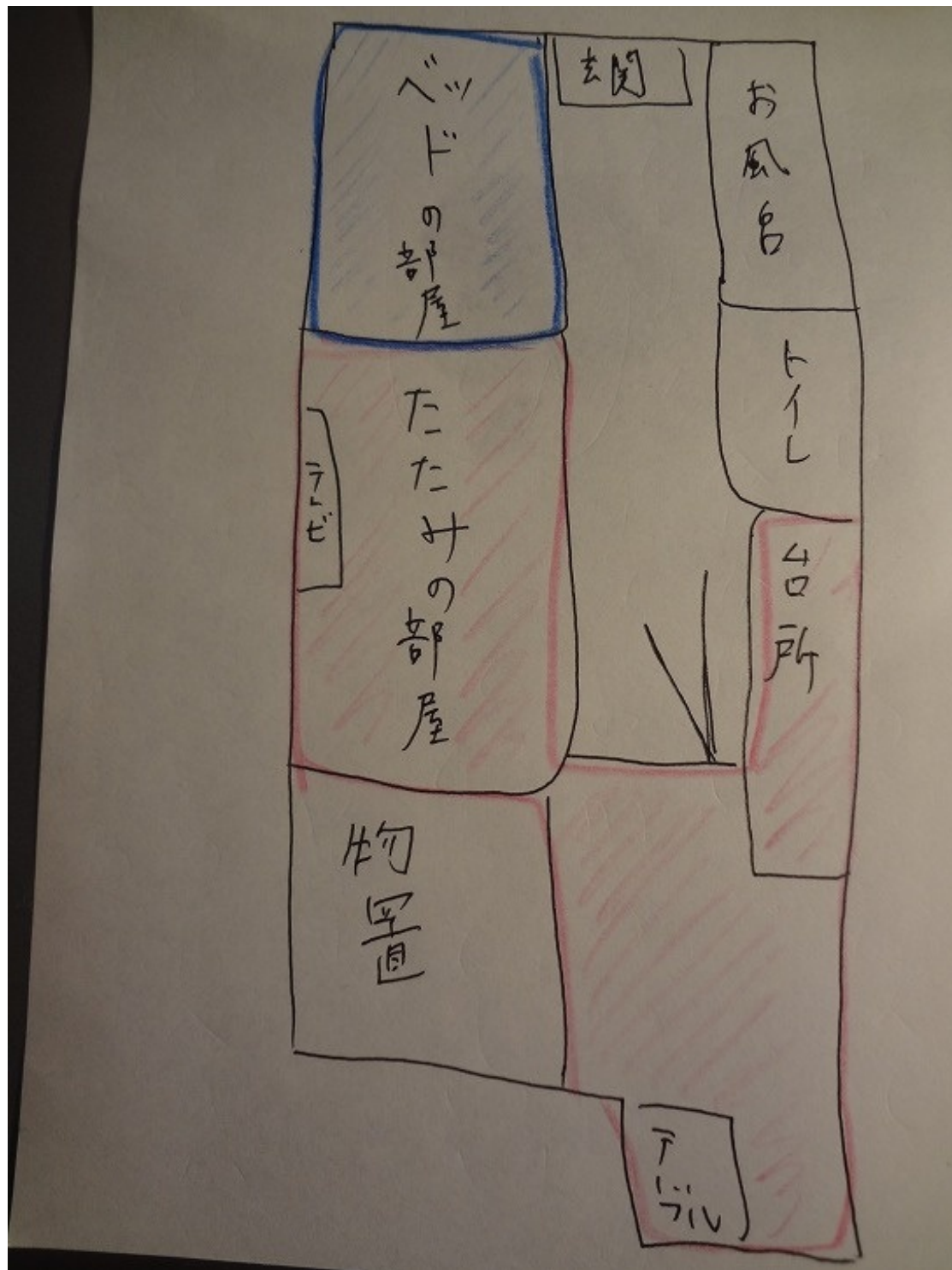
3日ほど家庭内別居状態であった。これが「オムツ事件」である。

ちなみにモラ夫は青色エリア、私と子供がピンクエリアとはっきりくっきり分かれて暮らしていた。

ご丁寧に「おれ、今日からベッドで寝ますから！毎日仕事でクタクタなんで！」とかなんとか宣言して家庭内別居が始まった。

子供の泣き声が聞こえるとピンクエリアまでやってきて、

「なんで泣かしてるんだ！！！」とミルクを作っている私に怒鳴り、赤ちゃんを抱っこするでもあやすでもなく、ベッドの部屋に戻っていたことがあった。



お菓子事件～モラ夫のゲーム中毒～

モラ夫は重度のゲーム中毒である。

結婚当初モラ夫本人が「俺は元ネットゲ廃人だ」と言っていたが、そんな話信じられないくらい当時はゲームをしていなかった。所が、携帯をスマホに変えたあたりからゲームに熱中するようになった。

それでも私はさほど気にしていなかった。子供が生まれるまでは。

産後直後はゲームばかりしている姿を見せられ、毎日イライラした。

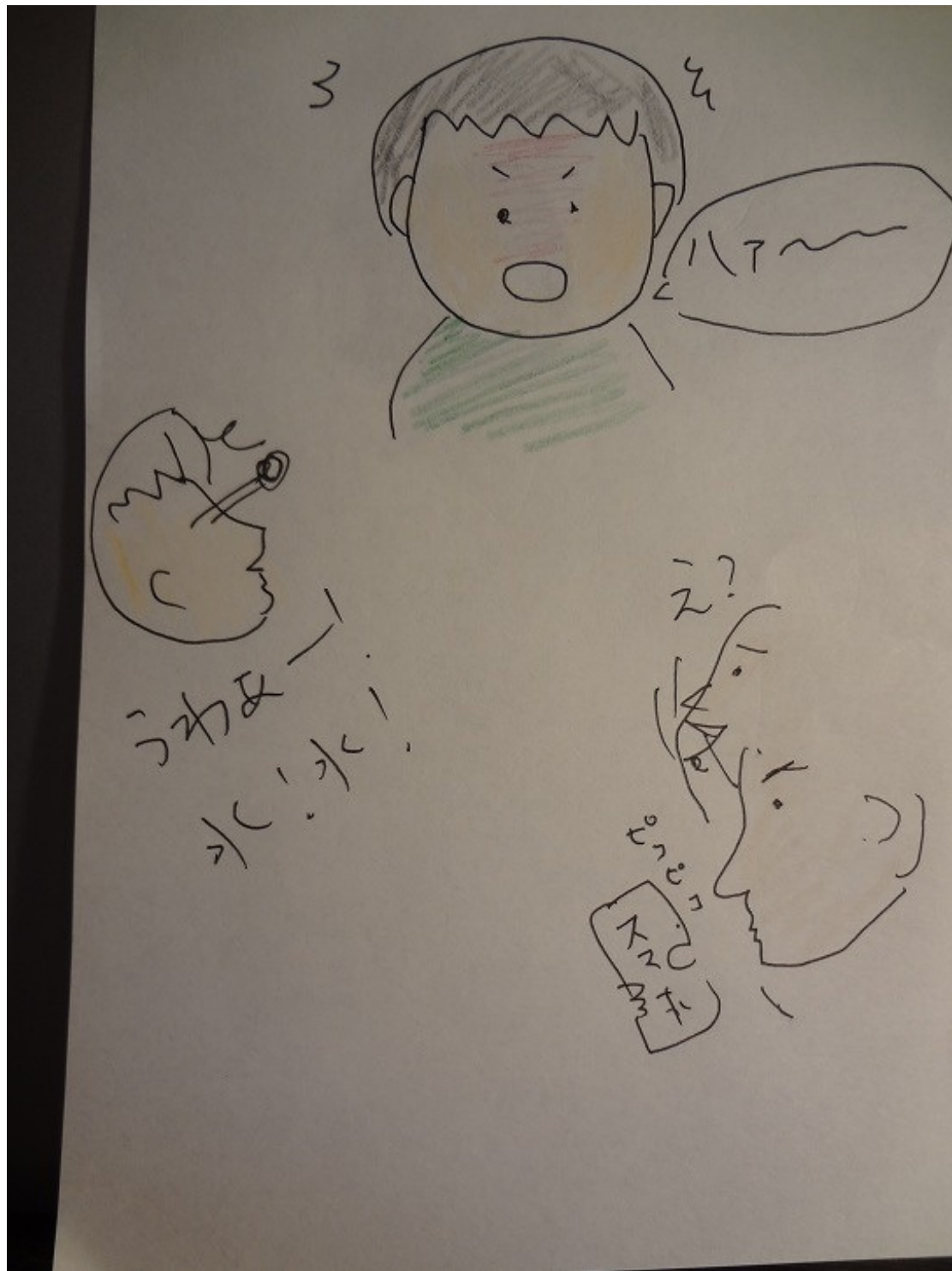
相手に期待するからイライラするんだという言葉はどこかで見て、それを自分に言い聞かせ、ひたすら我慢した。しかしそんな私の堪忍袋の緒が切れるどころか、大爆発することがあった。

ある日、子供に赤ちゃん用のウェーハースをあげていた時のことである。



初めてのお菓子だったので慎重になるべきだったのだが、ずいぶんお菓子を食べるのが上手になってきたので、子供本人にまかせて見守っていた。

ところが一口食べるや否や、子供が顔を真っ赤にして「ふああああああ！」と言い出した。



やばい!!!のどに詰ませた!と狼狽する私。

そして隣でスマホのゲームをしている真っ最中のモラ夫。

「水！水！これ（哺乳瓶）に水入れて！！！」と焦りまくる私。

そしてスマホを手から離さずゲームをしながら、「え？え？なにになに？」というモラ夫。

「こんな時にまでゲームってどういうことだよ！早く水！」



そうこうするうちに子供本人がうまく呑み込めたようで、なんとか呼吸できるようになった。ほっとすると同時にモラ夫に怒りが湧いてきた。

でもよく考えたら、今回はモラ夫が悪いわけじゃない。

モラ夫は直接悪いことはしていない。

どちらかというとなんか慎重にならなかった私のせい。それはわかってる。

わかってるんだけど、なんだかショックだった。

それを伝えたくてとにかく自分がショックを受けたことだけを伝えてみた。



するとモラ夫は「たまたまだよ！」と怒り口調。

何がどうたまたまなんだろう・・・。

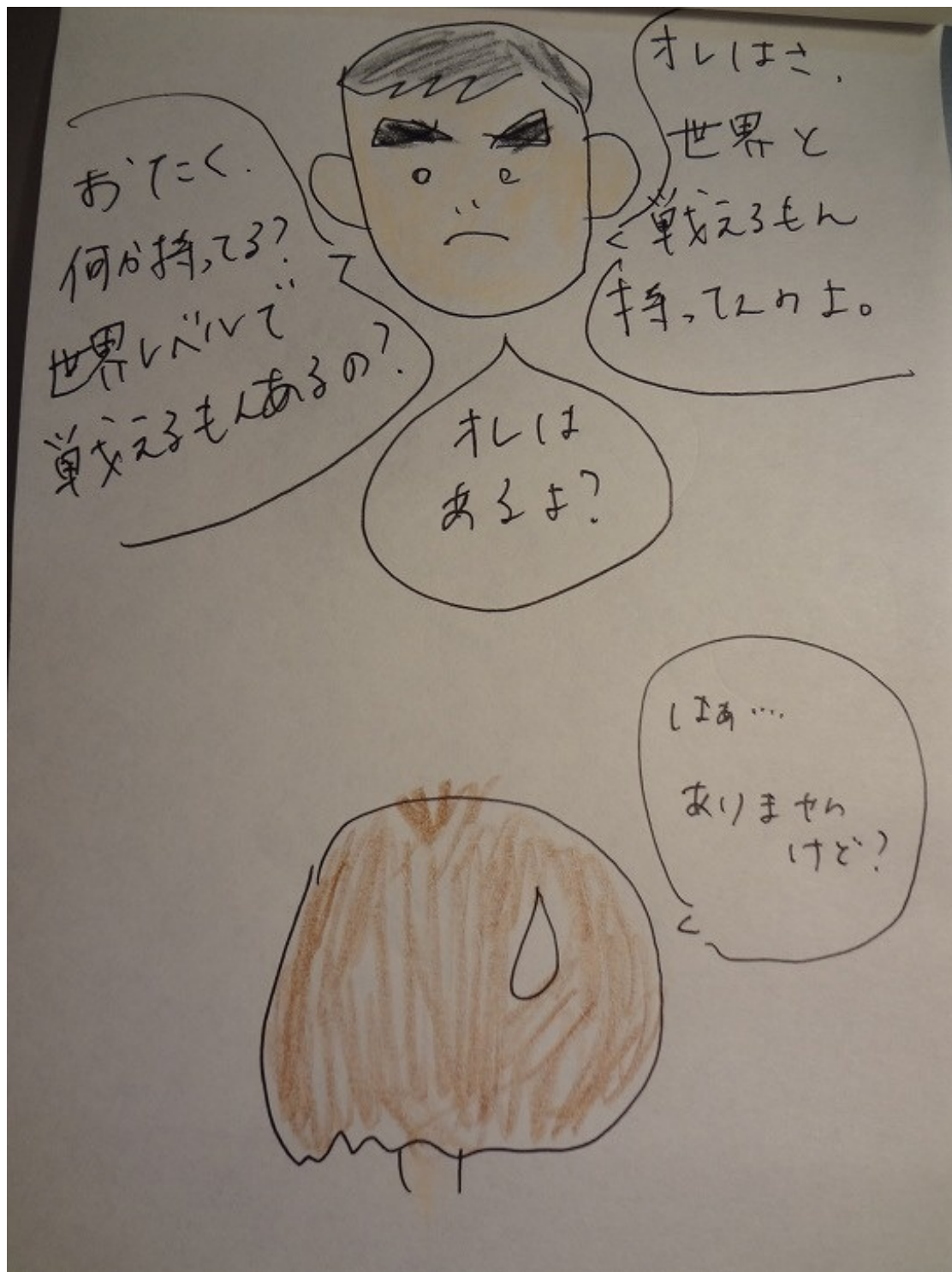
とにかくあまりにもショックだったので、この事件のことは忘れることにした。

それから約一か月、またしてもモラ夫のゲーム中毒っぷりに嫌気がさす事が起きた。

先週末、ゲーム中のモラ夫が上機嫌でこう言ってきた。

「ランキング1位の人から友達申請来てるわ〜。わかってるわ〜」

(ちなみにこの男、0歳児の父のはずなのに、どういうわけかゲームの全国ランキングほとんど10以内である。)



そしてこう言った。

モラ「俺はさ、世界レベルのものがあるのよ。世界と戦えるの。おたくはあるの?」

私「0歳児を持つ親でランキング一桁の人ってほかにいるのかね」

モラ「あるの?世界と戦えるものあるの?」

私「(しつこいなあ・・・答えるまで聞かれるのね。めんどくさー。答えてあげますよ。ええ。)
) ありません」

するとモラ夫は満足そうにこう言った。

「でしょう？」

このやりとりの最中の私の顔はきつとこんな顔をしていたと思う。

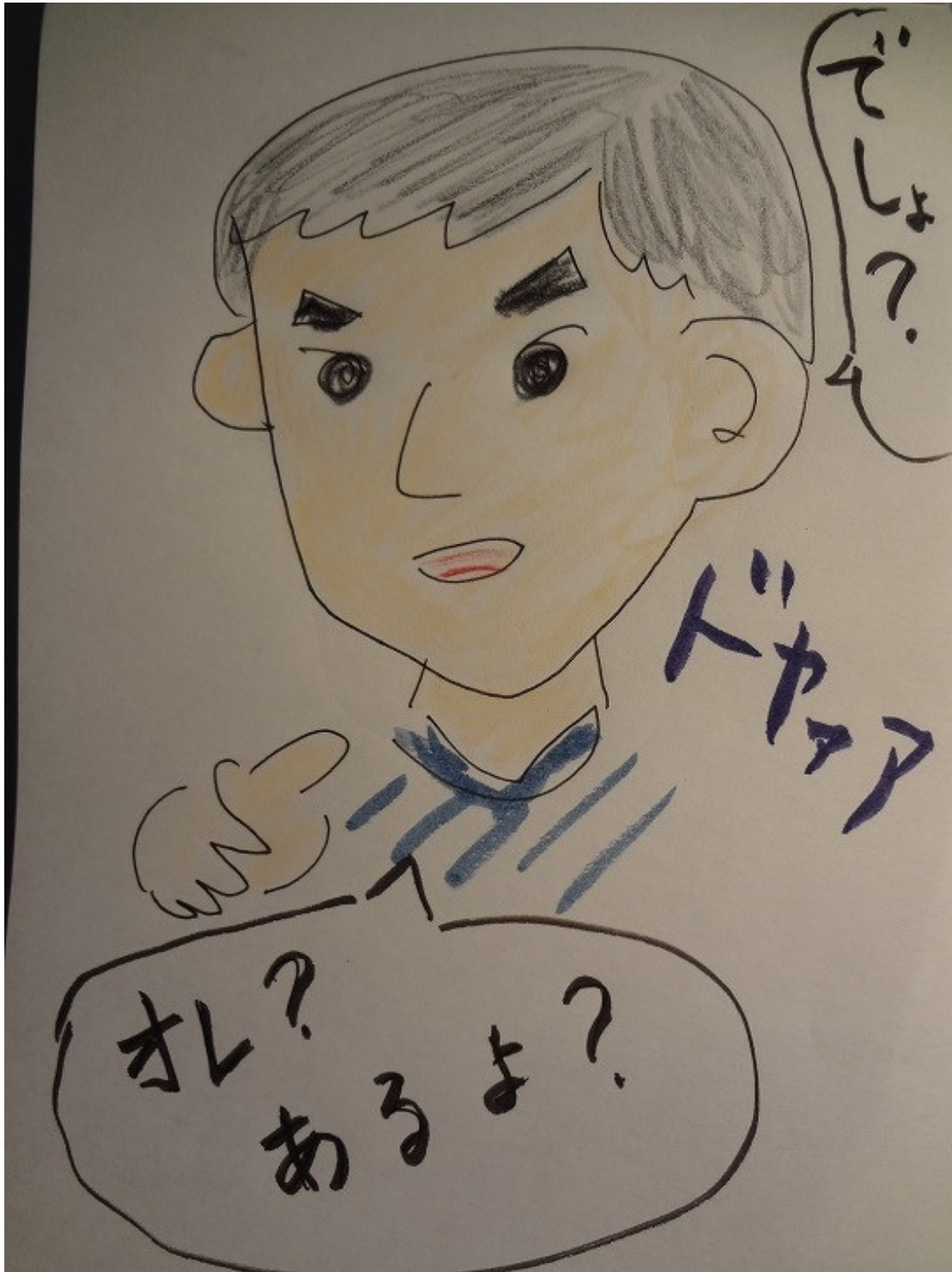


我慢できなかったので「そんなにゲームしたいなら一生独身でずーっとゲームしとけばいいのに～」

と言ってみた。

最大限の嫌味でモラ夫へ攻撃したつもりだった。

が、しかし……



全くのノーダメージのモラ夫であった・・・。

1位の人からの友達申請がよほど嬉しかったらしく、私の言葉は彼の耳に届いていなかった。

この人にとってゲームは人生そのものなんだろう・・・。

きっと・・・たぶん・・・そういうことにしておこう。

私はますますモラ夫へ何も期待しなくなった。

お風呂事件

私たちがまだ東京に住んでいた頃、子供が生まれてから2か月ほど経った頃だった。

久しぶりにゆっくり一人でお風呂に入りたかった私は、モラ夫に子供をお願いしてお風呂に入っていた。

お風呂上りにうっすら子供の泣き声があるので、髪も乾かさずにそのままへ2人がいる部屋へ入った。



するとお怒りモードのモラ夫。

「早くしてよ！」

とイラついている。

慌てて部屋に入ると、モラ夫が手荒に子供（二か月）を私の腕の中に入れ込んできた。



物でも置くかのような手荒さだったので、ひどくムカついた。

「何今の子!?」と言ったがモラ夫はすでに別室でゲームを始めている。
赤ちゃんの泣き声と、ゲームを出来ないストレスで相当イラついていたようだった。
私はそのまま髪も乾かせず、子供をあやして寝た。

そんなこともあって、モラ夫に子供を預けるのが難しくなった。
最近でもこんな状態。



モラ夫に子供を見てもらっている間に、私は食器を洗っていた。
ソファに子供を乗せて遊んでいるなあと思っていたら、そのまま子供に背を向け少し離れてゲームを開始。
ゲームをしながらチラチラテレビを見ている。
こんなんじゃ恐ろしくて、子供を預けられない。

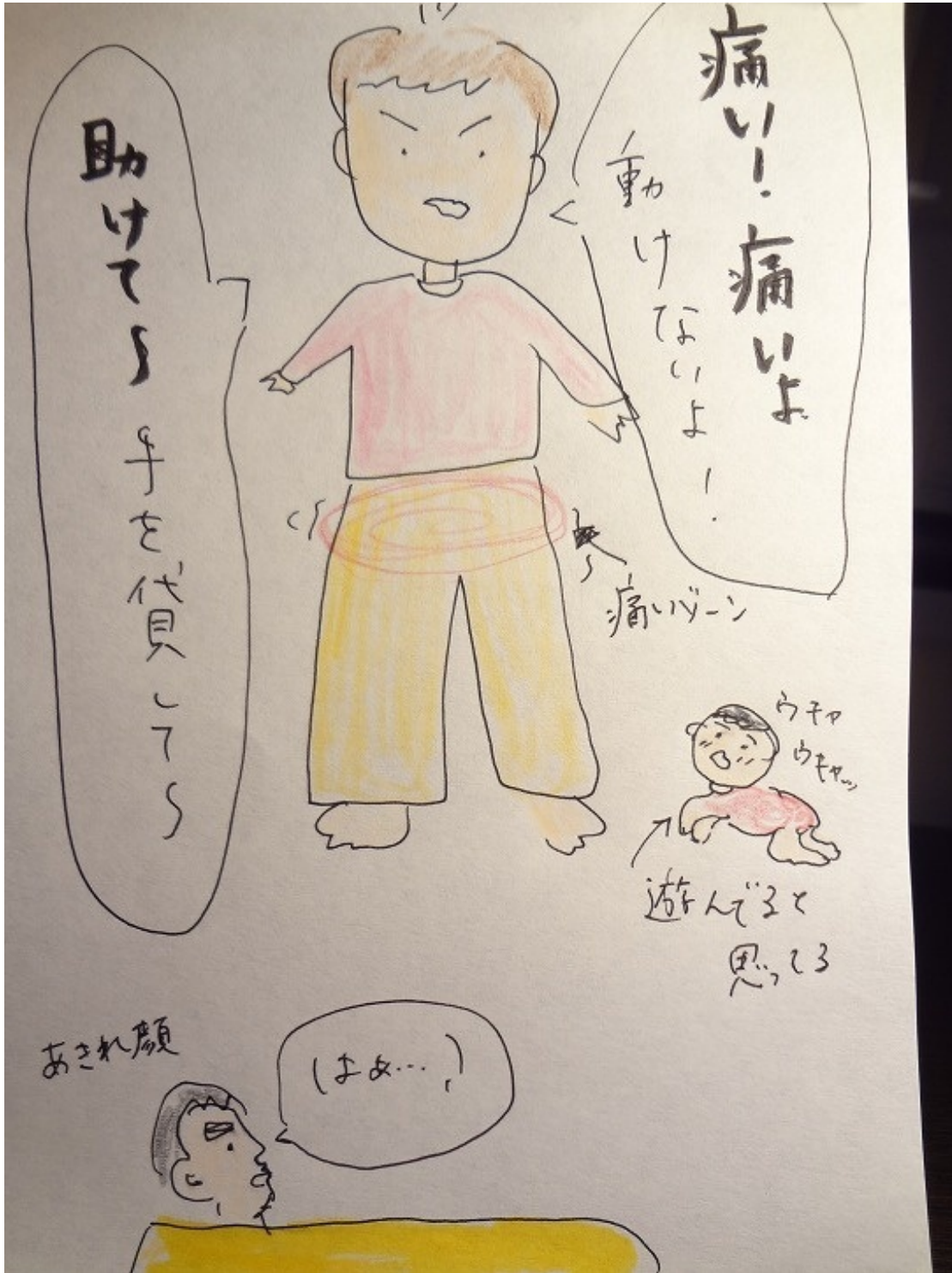
モラ夫が無関心なのは私のせいかと思い、ダイエットをしようとした。



所が、普段運動しないのに、柔軟体操もせずに張り切って50回もスクワットをしたのがいけなかったのか、スクワットをした直後に棒立ちで化粧をしたのがいけなかったのか、化粧を終え移動しようとするとう動けなかった。

激痛で足を動かすことが出来なかったのである。

その時近くのソファでモラ夫がくつろいでいたので、助けを求めた。



私「助けて〜助けて〜」

モラ「はあ〜?...(呆れ顔でただ見つめる)」

なぜだかモラ夫はソファから動かず、1、2分の間あきれた顔でただ私を見ていた。
その間私は一生懸命足を動かそうとしたけれど、股関節が痛くて痛くて動けなかった。

たった数分間だけどすぐに助けに来てくれない意味がわからない。

結婚前は私がササクレを剥いて血を出してるだけで、

モラ「いや〜ん。痛そう・・・」(クネクネ)

って言うってくれるくらい優しくかったのに・・・。

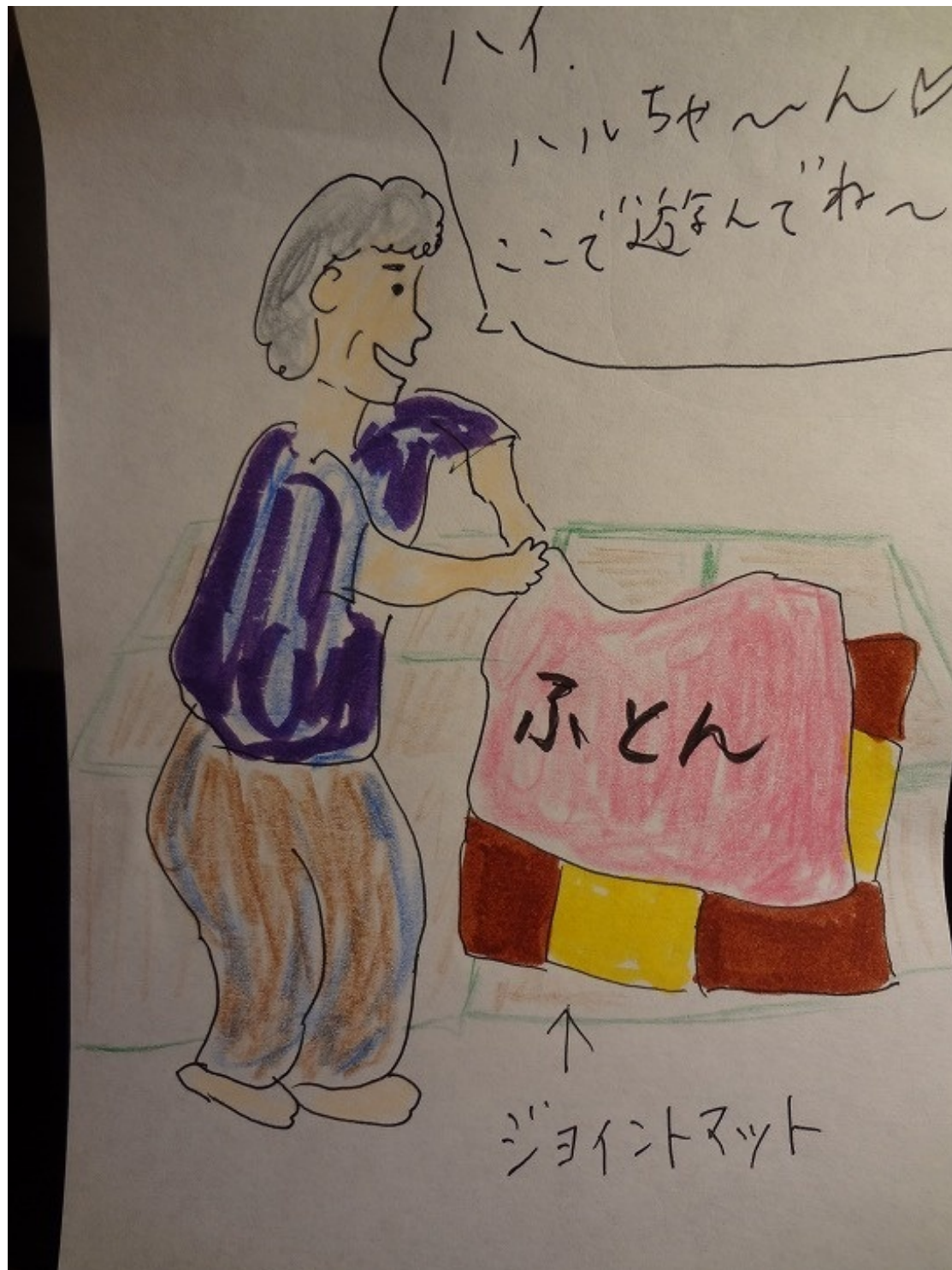
今では目視で私をいたぶる始末。



この数分後によようやく助けに来てくれました。

私の実家でのモラ夫

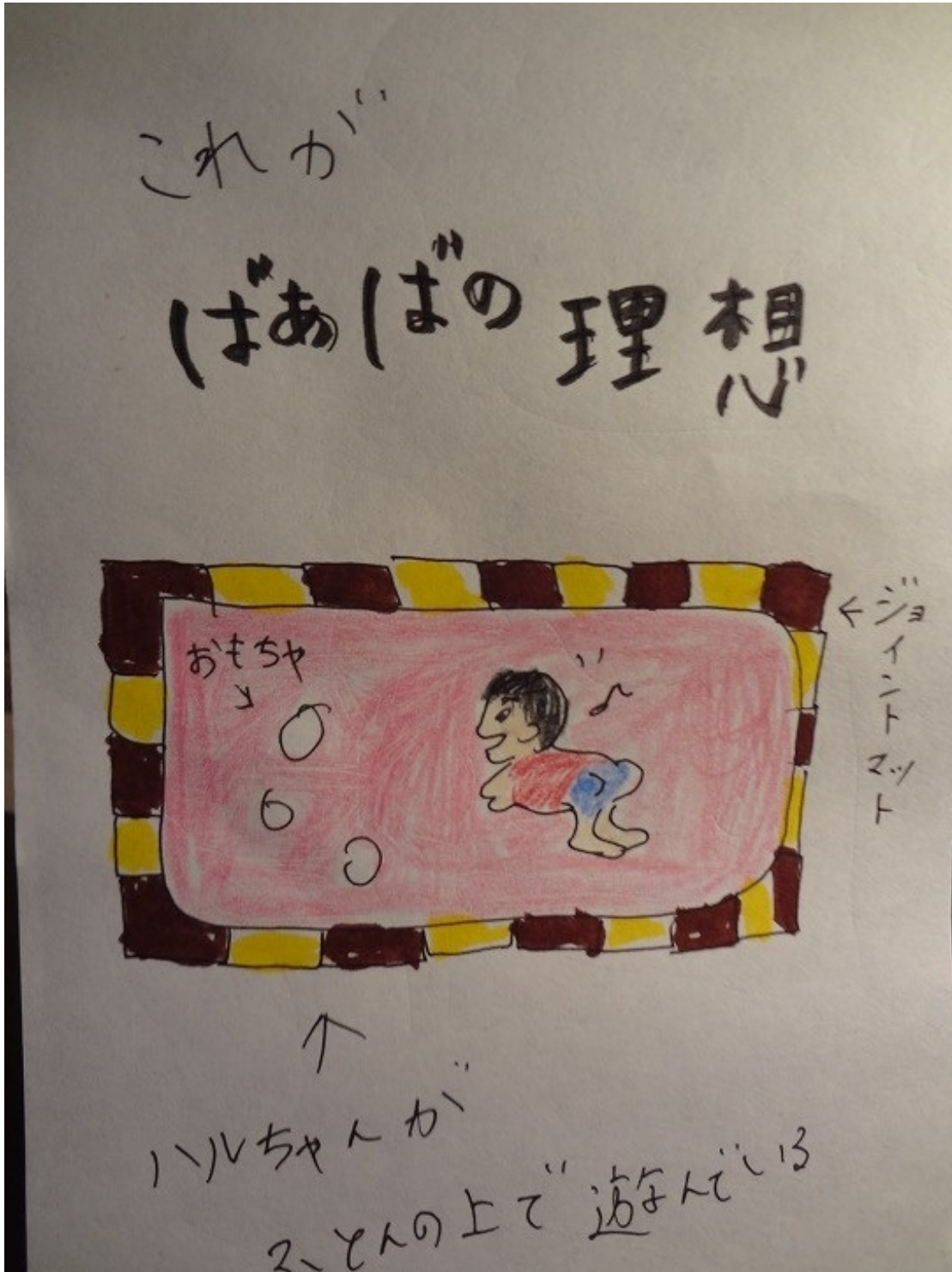
たまに私とモラ夫、子供（ハルちゃん）の三人で私の実家へ遊びに行く。
子供はばあばにとって初孫なので、ハルちゃんが家に来ると大変張り切る。



毎回ジョイントマットの上に、うっすい敷布団を敷いてくれる。

これがばあばの理想の形である。

敷かれた布団の上で安全にハルちゃんを遊ばせたいのだと思う。



実際は、布団からはみでて遊ぶことも多い。

それはいいの。それは。

だけれども、だけれども・・・。

どうしてこうなるのよおおおお。



↑

なぜか

そのふとんの上で

ね、寝かがり

ゲームをす

もう夫

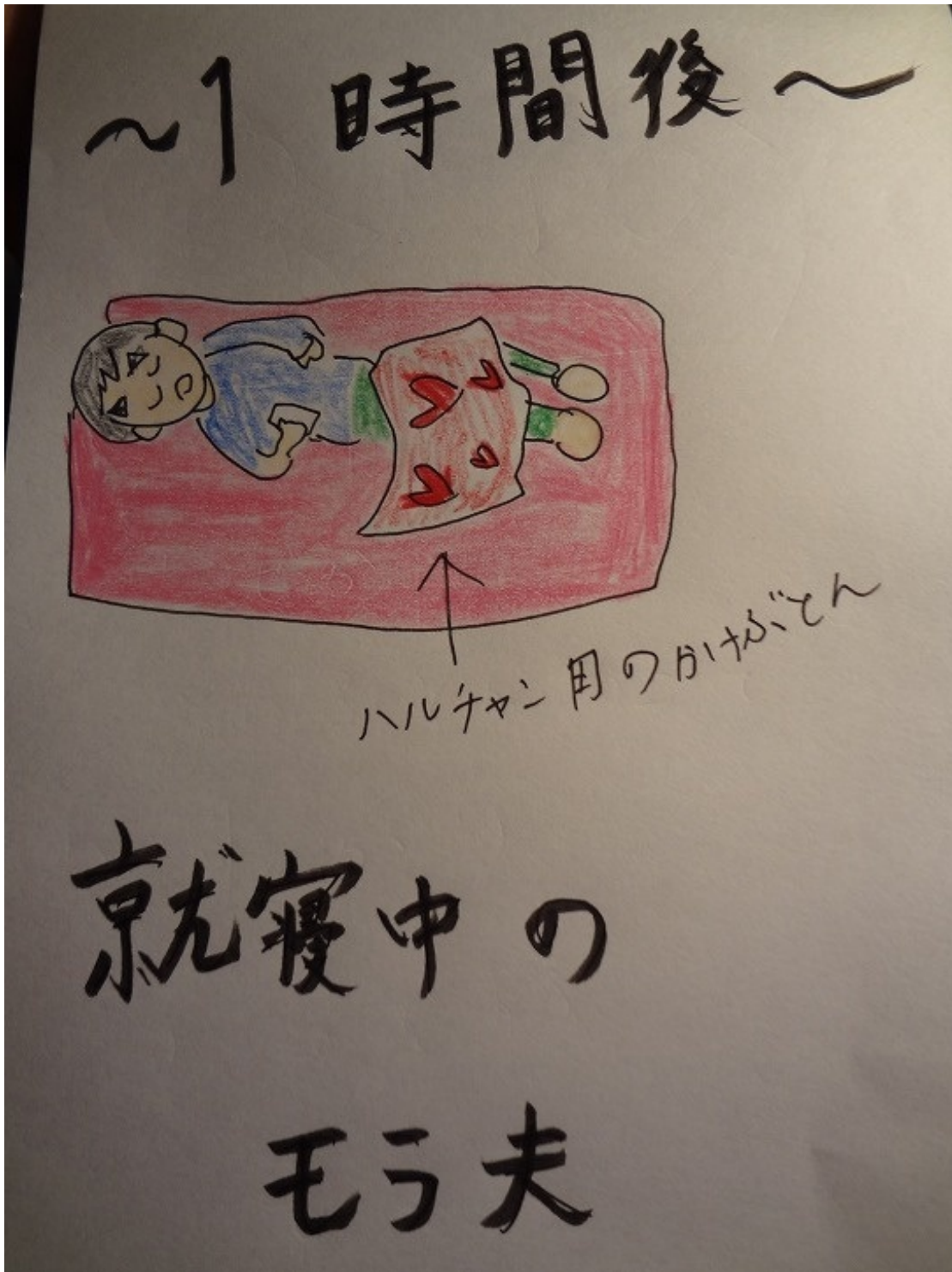
確かにハルちゃん布団の上でじっとしているわけじゃないけどさあ~~~~~。

近くにソファもあるじゃんよおおおお。

寝そべっちゃう???ここでええええ?

そいでもって・・・

～それから1時間後～



予想通り完全に爆睡のモラ夫。

さすがだよ！モラ夫さん！！ハルちゃんの掛布団まで使っちゃって最高！（かけてあげたのは私だけだ）

ばあば「モラ夫さん相当疲れてるんじゃない？」

って、ばあばモラ夫の行動が不可解すぎたのか現実逃避。

嫁の実家で寝るかよ！しかも子供のために敷かれた布団の上で。

ゲームのやりすぎでいっっっっつっつも疲れてるの！

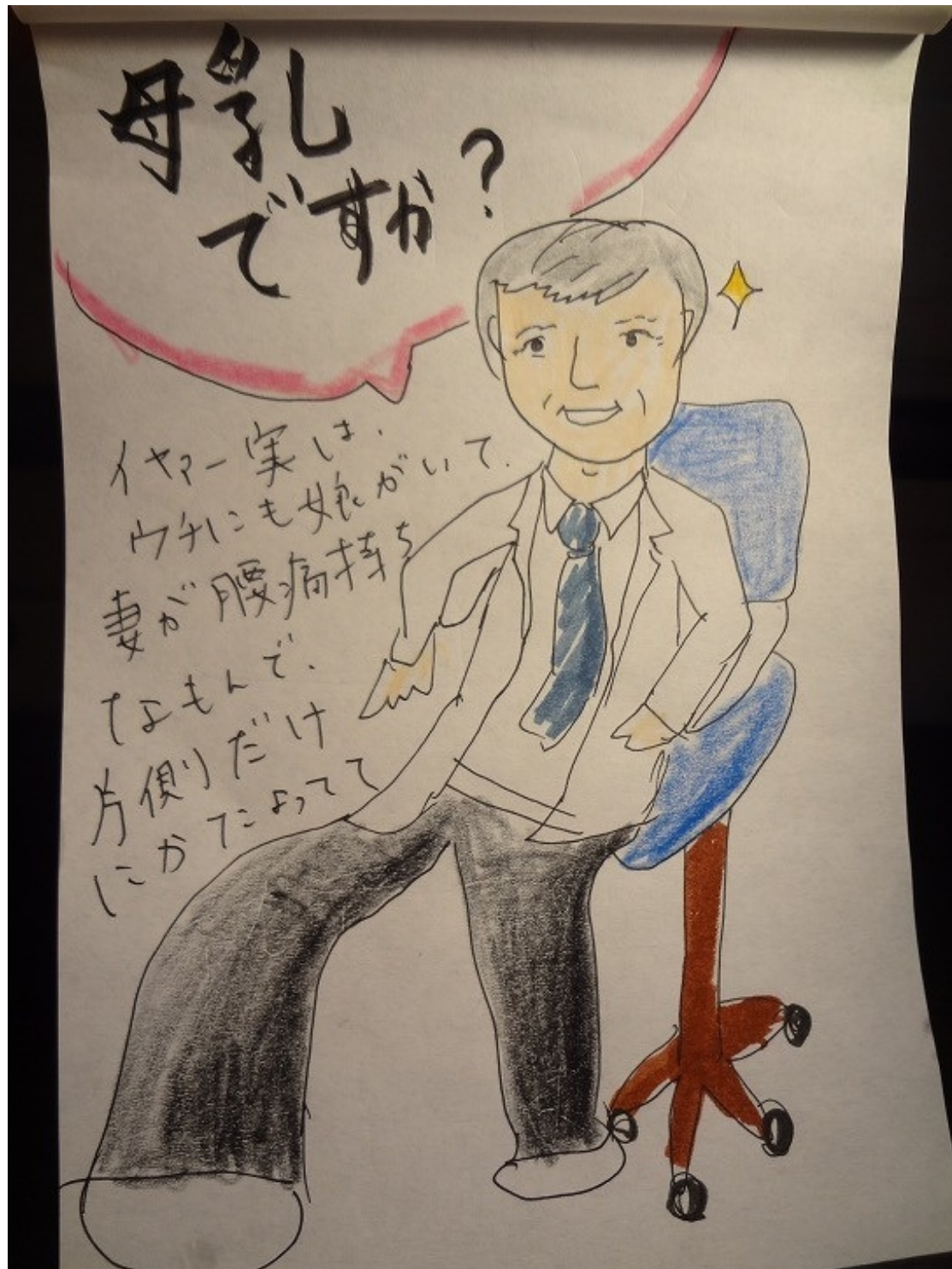
近所のイケメンアンニュイドクターときどき事件

子供が2か月の頃から、一か月に一度近所の眼科へ通っていた。

そこの眼医者さんが、話し方がすごく優しく、なんだかアンニュイだった。

加えてそれはそれは素敵なロマンスグレーな頭髪だったので、結構楽しみに通っていた。

2、3回目の通院の時突然、先生に「母乳ですか？」と聞かれた。



当時ちょうど母乳真っ盛りの頃で、パンパンに張っていたので、それを見て質問されたのかと勝手に勘違いして、内心ドキドキしながら

「は、はい。（もしかして染み出てる？と思って胸を確認しつつ）そうです。キリッ」と答えた。

。実際は、子供の目ヤニの原因は耳にあるんじゃないかと探っていたらしいのだ。

冷静に考えればわかるんだけど、勘違いしちゃうくらいアンニユイからはフェロモンが出ているのだ。

耳に原因はないらしいことが分かったアンニユイは、目の穴？に何かを通して、詰まり具合を確認する処置をしましょう、ということになった。

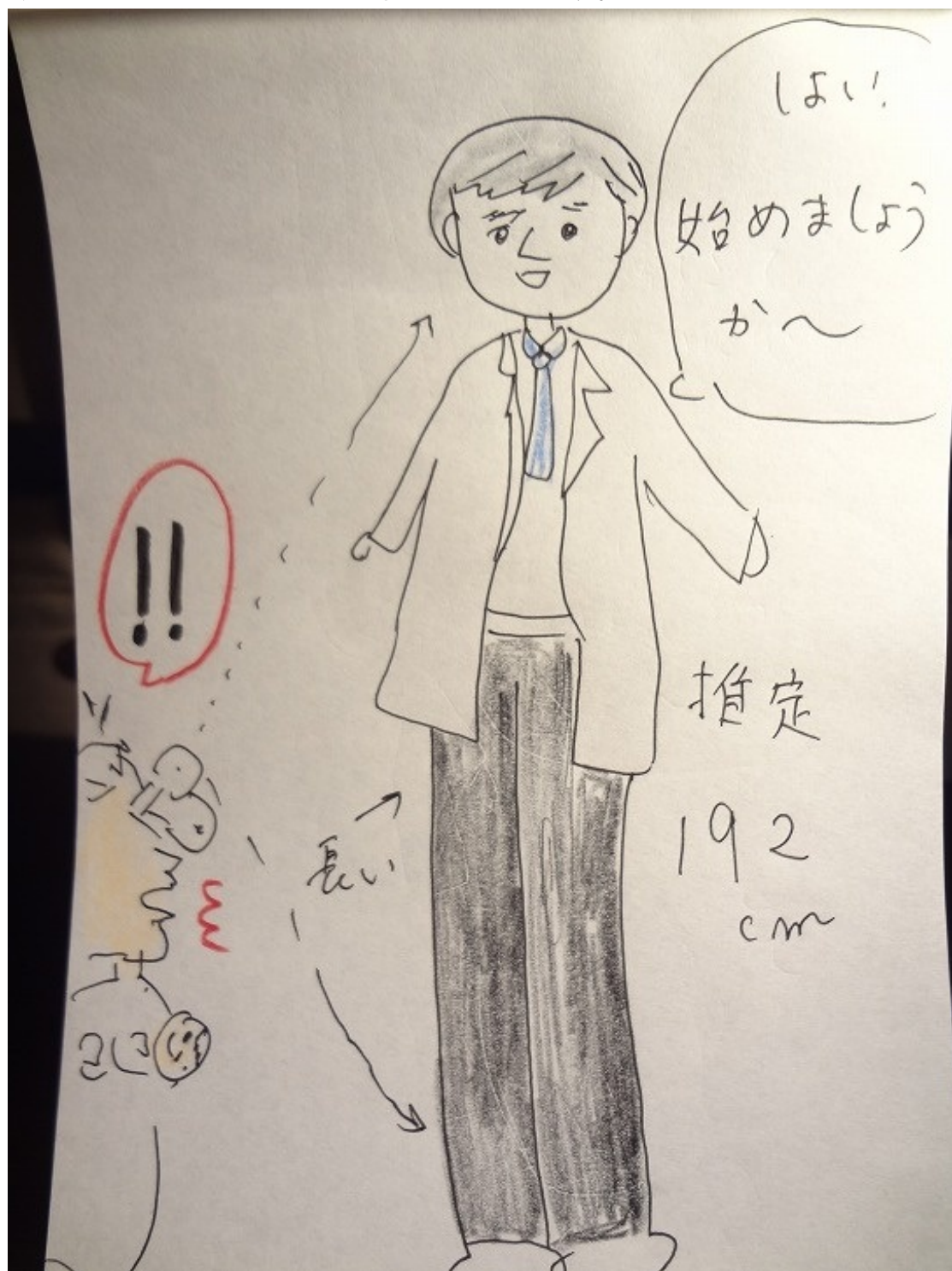
別室で看護師さんと一緒に待っていた。



私の緊張をほぐそうと、どうでもいい世間話をしてくれる看護師さんの背後で何かが動いた。話している途中で目を逸らすのも失礼かと、しばらくは直視出来なかった。どうやら、動いているのは人であるらしいことだけは分かった。

なんということでしょう。

動いていたのは、アンニユイ本人だったのです。



びっくりしすぎて、言葉を失う私。

「でかいですね!」とか「身長いくつなんですか!」とか立て続けに質問したかったけれど、なんとなく緊張感が漂っていたので聞けなかった。

アンニユイめ! ソフトな話し方、ソフトは顔からして勝手に低め身長だと思っていたぜ。びっくりだぜ。

アンニユイの処置の結果、詰まっている（鼻涙管閉塞）であることが確定。
元の部屋に戻って、マッサージの仕方を教えてもらうことになった。



初めに手本を見せてくれるアンニユイ。
私にもやってみよう促している。

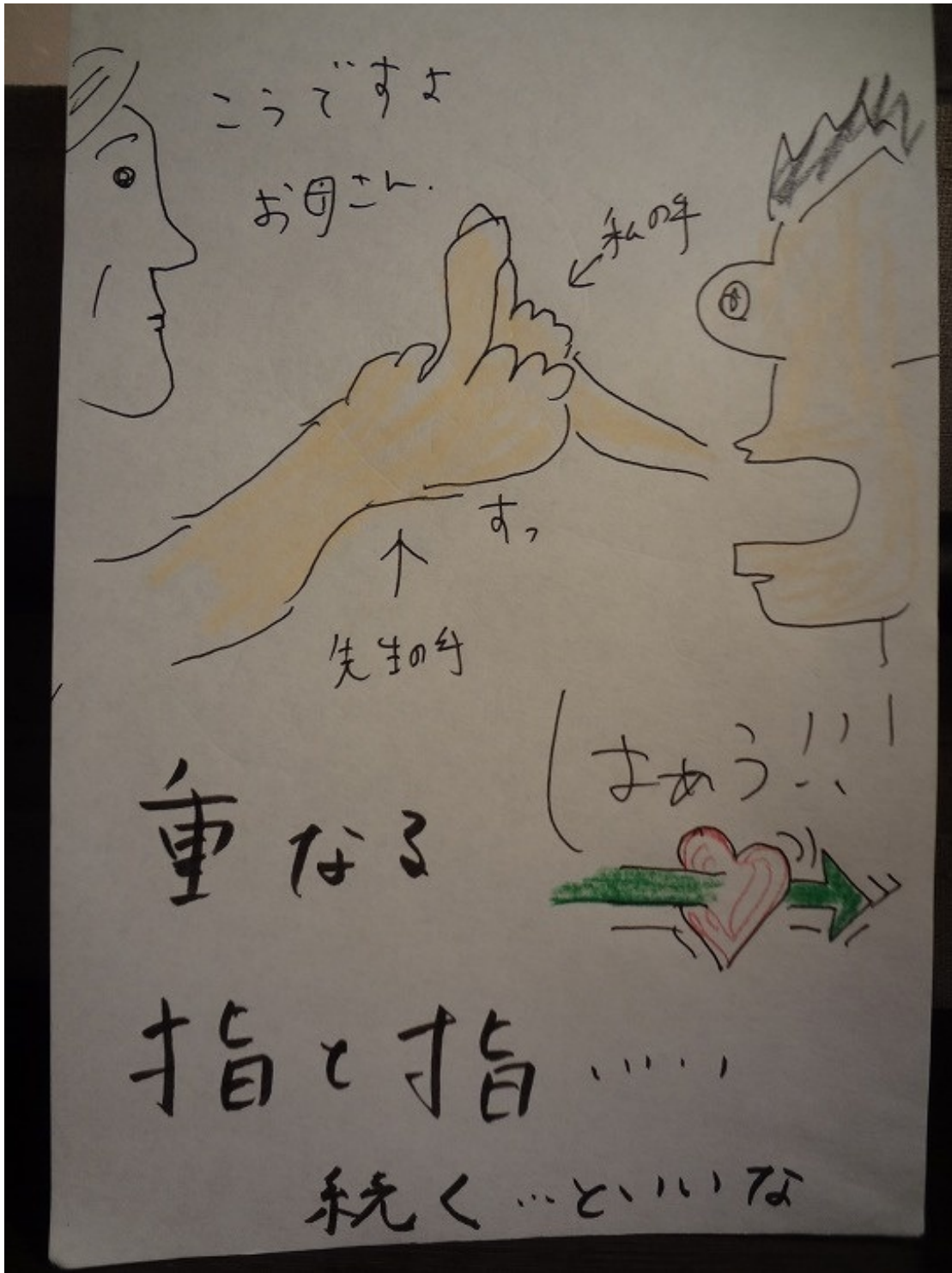
こんな汚い指でやっていいんだらうかと心配になりながらも、見よう見まねでやってみる私。



真向いでで優しく見守るアニューイ。

ちなみに、アンニユイは高身長で足が長いため、この時実はアンニユイの足の中に私達親子が挟まれている状態。

これだけでも十分ドキドキすぎる状況なのにアンニユイったらこの後とんでもない行動に出る。



アンニユイ様~~~~!!!

指を重ねてキタァァァァァァァ~!!!

びっくりしすぎて即効手を振りほどく私。

ああ。もったいない。あと数秒触って頂けば良かったのに。